

保医発1031第1号  
平成25年10月31日

地方厚生(支)局医療課長  
都道府県民生主管部(局)  
国民健康保険主管課(部)長  
都道府県後期高齢者医療主管部(局)  
後期高齢者医療主管課(部)長

殿

厚生労働省保険局医療課長  
( 公 印 省 略 )

厚生労働省保険局歯科医療管理官  
( 公 印 省 略 )

「特定保険医療材料の材料価格算定に関する  
留意事項について」等の一部改正について

下記の通知の一部を別添のとおり改正し、平成25年11月1日から適用することとするので、その取扱いに遺漏のないよう、貴管下の保険医療機関、審査支払機関等に対して周知徹底を図られたい。

記

別添1 「特定保険医療材料の材料価格算定に関する留意事項について」(平成24年3月5日保医発0305第5号)の一部改正について

別添2 「特定保険医療材料の定義について」(平成24年3月5日保医発0305第8号)の一部改正について

「特定保険医療材料の材料価格算定に関する留意事項について」  
(平成24年3月5日保医発0305第5号)の一部改正について

1 Iの3の(46)のイを次のように改める。

イ 植込型脳・脊髄電気刺激装置

a 植込型脳・脊髄電気刺激装置（振戦軽減用）は、薬物療法によって十分な治療効果の得られない以下のいずれかの症状の軽減を目的に使用した場合に、1回の手術に対し2個を限度として算定できる。

i 振戦

ii パーキンソン病に伴う運動障害

iii ジストニア

b 植込型脳・脊髄電気刺激装置の交換に係る費用は、破損した場合等においては算定できるが、単なる機種交換等の場合は算定できない。

「特定保険医療材料の定義について」（平成24年3月5日  
保医発0305第8号）の一部改正について

- 1 別表のⅡの087の(3)の③のアを次のように改める。
  - ア パーキンソン病、ジストニア又は本態性振戦に伴う振戦等の症状の軽減効果を目的として使用するものであること。

(参考)

「特定保険医療材料の定義について」(平成24年3月5日保医発0305第8号)の一部改正について

(傍線の部分は改正部分)

改正後	現 行
<p>(別表)</p> <p>II 医科点数表の第2章第3部、第4部、第6部、第9部、第10部及び第11部に規定する特定保険医療材料(フィルムを除く。)及びその材料価格</p> <p>087 植込型脳・脊髄電気刺激装置</p> <p>(1)～(2) (略)</p> <p>(3) 機能区分の定義</p> <p>①～② (略)</p> <p>③ 振戦軽減用(4極用)</p> <p>次のいずれにも該当すること。</p> <p>ア <u>パーキンソン病、ジストニア又は本態性振戦に伴う振戦等の症状</u>の軽減効果を目的として使用するものであること。</p> <p>イ (略)</p> <p>④～⑦ (略)</p>	<p>(別表)</p> <p>II 医科点数表の第2章第3部、第4部、第6部、第9部、第10部及び第11部に規定する特定保険医療材料(フィルムを除く。)及びその材料価格</p> <p>087 植込型脳・脊髄電気刺激装置</p> <p>(1)～(2) (略)</p> <p>(3) 機能区分の定義</p> <p>①～② (略)</p> <p>③ 振戦軽減用(4極用)</p> <p>次のいずれにも該当すること。</p> <p>ア <u>パーキンソン病又は本態性振戦に伴う振戦等の症状</u>の軽減効果を目的として使用するものであること。</p> <p>イ (略)</p> <p>④～⑦ (略)</p>

(参考)

「特定保険医療材料の材料価格算定に関する留意事項について」(平成24年3月5日保医発0305第5号)の一部改正について  
(傍線の部分は改正部分)

改正後	現 行
<p>I 診療報酬の算定方法(平成20年厚生労働省告示第59号)(以下「算定方法告示」という。)別表第一医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>3 在宅医療の部以外の部に規定する特定保険医療材料(フィルムを除く。)に係る取扱い</p> <p>(46) 脊髄刺激装置用リード、植込型脳・脊髄電気刺激装置</p> <p>ア(略)</p> <p>イ 植込型脳・脊髄電気刺激装置</p> <p>a 植込型脳・脊髄電気刺激装置(振戦軽減用)は、薬物療法によって十分な治療効果の得られない<u>以下のいずれかの症状の軽減を目的に使用した場合に、1回の手術に対し2個を限度として算定できる。</u></p> <p><u>i 振戦</u></p> <p><u>ii パーキンソン病に伴う運動障害</u></p> <p><u>iii ジストニア</u></p> <p><u>(削除)</u></p> <p>b 植込型脳・脊髄電気刺激装置の交換に係る費用は、破損した場合等においては算定できるが、単なる機種交換等の場合は算定できない。</p>	<p>I 診療報酬の算定方法(平成20年厚生労働省告示第59号)(以下「算定方法告示」という。)別表第一医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>3 在宅医療の部以外の部に規定する特定保険医療材料(フィルムを除く。)に係る取扱い</p> <p>(46) 脊髄刺激装置用リード、植込型脳・脊髄電気刺激装置</p> <p>ア(略)</p> <p>イ 植込型脳・脊髄電気刺激装置</p> <p>a 植込型脳・脊髄電気刺激装置(振戦軽減用(4極用))は、<u>パーキンソン病又は本態性振戦に伴う振戦等、薬物療法によって十分な治療効果の得られない振戦等の症状の軽減を目的に使用した場合に、1回の手術に対し2個を限度として算定できる。</u></p> <p>b <u>植込型脳・脊髄電気刺激装置(振戦軽減用(16極以上用)充電式)は、薬物療法によって十分な治療効果の得られない以下のいずれかの症状の軽減を目的に使用した場合に、1回の手術に対し2個を限度として算定できる。</u></p> <p><u>i 振戦</u></p> <p><u>ii パーキンソン病に伴う運動障害</u></p> <p><u>iii ジストニア</u></p> <p>c 植込型脳・脊髄電気刺激装置の交換に係る費用は、破損した場合等においては算定できるが、単なる機種交換等の場合は算定できない。</p>